

## 第 5 7 期 事業報告

平成 2 2 年度 4 月 1 日から平成 2 3 年度 3 月 3 1 日まで

医療を取り巻く環境は、年を経るごとに厳しさを増し、長期にわたる医療費抑制政策や医師・看護師等育成政策の遅れの中、病院経営の危機的状況からの脱却は困難を極めております。

マスメディアでは、医師の確保等の問題から病院の存続の危機や崩壊、あるいは、故意か、過失かによる不正請求問題が大きく取り上げられております。

また、受診者側の意識に「当然だ」とか「当たり前だ」とか「それが義務だ」とかの権利者意識が強く、言葉や態度が粗暴になり、医療との対立を生む場面も出ており、果ては訴訟へと問題が深刻化する場合があります。

このように積年の深刻な状況から、近年は、ハイリスクの患者の受け入れを断られ、受け入れ先を求めて何箇所も探し回ることになり、手遅れとなり不幸な結果となってしまったという事例が何例か報道されました。

不安定を極めた前政権から新政権に交代し、診療報酬の見直しが示されましたが、その効果はさほどではありませんでした。また、人材の面では、医療に従事する者の大都市願望は強く、地方での人材確保は、経費の増大化と表裏一体の関係ともなり、病院経営を圧迫しております。

新政権自体も、加熱した一昨年(平成 20 年)の衆議院議員選挙当時から見ると、時間が経過するごとにあいまいさが目立ち、歯切れの悪い政権運営がされており、社会不安は好転の兆しが見られません。さらに先の東日本大震災に続いて東京電力福島原発問題で、日本は信用と信頼を失い、沈没寸前の状況に襲われております。

当法人は、その成り立ちから、地域に根ざした公共的な法人としての役割を十分に認識し、地域住民のための医療体制を整備し、地域の医療保健に貢献するという使命感を持ち、厳しい現状との狭間で葛藤しながらも安定運営に意を注いでまいりました。

富士病院は 57 期も前期に続き赤字となりましたが、その第一の要因は、平均在院日数の短縮に伴い入院稼働率の減少が挙げられます。6 月より、看護基準(入院診療報酬) 7 対 1 を取得し、収益は改善しましたが、地域に必要な医療で不採算部門が、収益を圧迫する結果となっております。

懸案でありました富士病院の耐震化につきましては、年度中途において、急遽、耐震化事業の対象施設の認定を受けることが出来、本年度中の着工という厳しい条件の中、請負業者の選定を行い、平成 2 3 年 3 月 1 4 日には起工式・工事着手まで進めることができました。2 3 年度から第 1 期工事の本格的施工を行い、2 6 年 1 月末までの長期工事が開始となります。大規模地震など大災害時に救護病院として重要な役割を果たして多くの人命救助に当たることは

当法人の3病院が持つ重要な役割で、その中心を富士病院がしっかり果たすことが出来る建物になります。

富士小山病院につきましては、10対1の手厚い看護を継続し、介護病棟におきましては、入所者に対して心からのサポートを心がけるとともに、介護療養型ベッドにつきましては、介護保険制度の動向に注意を払い、対応してまいりました。

また、東部病院につきましては、今年度念願の黒字化が実現しました。裾野・御殿場・小山町で唯一夜間透析のできる施設としてフルに稼働したこと等により、運営は改善してきております。しかし、透析以外については依然厳しく、外来・入院診療の充実を更に図り、慢性創傷ケアチームなどの特色を明確化するとともに、経費を見直して無駄の削減をするなど、経営の健全化をさらに押し進める必要があります。

訪問看護ステーションにつきましては、患者数は110名となり、月の訪問回数が600回を超えた月もありました。

グループホームにつきましては、入居高齢者の身体的体力の低下や、認知症の重度化も進んでいる中で、さまざまな事態に対して、スタッフの対応能力の向上を図るとともに、日常生活援助・介護能力を上げるため努めてまいりました。

57期も本体である富士病院が大幅な赤字となりました。公的役割を抱え、不採算医療を多く担当する富士病院は、赤字からの脱却は容易ではなく、現行制度下の補助支援を申請し、更に市、県に強く支援を訴えていく必要を感じました。富士小山病院・東部病院の特化した診療部門の充実、訪問看護事業・在宅事業の拡大と介護療養病棟・グループホームごてんばとの連携を密にし、さらに地域の他福祉施設との密接な連携を強めることにより、御殿場・小山町の地域医療・介護を安定的に提供する体制づくりに尽力しました。

また診療報酬に左右されない事業の育成として、引き続き健診事業にも力を注いでまいりました。

介護部門に関しては、平成23年度末の療養病棟再編にむけて、小山町を始めとした地域の要望を鑑みながら、グループ内の病院毎の機能分化、長期療養を主眼とした施設作りのため、国の動向を見ることとしました。

3病院の機能分化と連携の確立が御殿場市および小山町の医療・福祉・保健の将来を担っており、またその完成により有隣厚生会の存在意義がさらに向上します。このため各病院の医師をはじめスタッフ同士がお互いの医療内容を理解し、協力し合えるようなシステム構築に努めました。

また御殿場看護学校の運営については、引き続きその中心的役割を担いました。

さらに医師会、行政、他の医療機関・施設と徹底した連携を図り、住民がスムーズに医療機関・施設を利用できる体制づくりに尽力しました。そして保健

事業については、行政との連携・交流のなかから必要に応じた対応を行い、特定健診・指導事業にも積極的に関わっていきました。

## 各事業について

### 1. 生活困窮者に対する医療援助

生活困窮者・心身障害者・老人等の患者に対しては、治療費など一部負担金の減額及び免除を例年通り実施しました。

### 2. 教育文化活動

病院、介護事業を運営する上で重要な担い手である看護師、その他のコメディカルスタッフの教育、育成に本年度も引き続き取り組みました。

#### 看護学生教育、育成事業

地域医療に貢献できる看護師を養成するため看護学生に対し各病院において奨学金を支給しておりますが、22年度は御殿場看護学校等の学生のうち、3年生13名、2年生13名、1年生13名(うち他校1名)合計39名に奨学金の貸与を実施いたしました。

3年生のうち7名が富士病院、3名が富士小山病院、1名が東部病院に内定となりました。

22年3月の卒業生のうち、富士病院に12名(うち他校1名)、富士小山病院に3名、東部病院に1名が就職いたしました。

#### 御殿場看護学校の運営

御殿場看護学校の運営を御殿場市医師会病院部会(9病院)で行っていますが、当法人はその中心としての役割を持ち、教員等の採用などにも関わり、地域に貢献する看護師に育成すべく、各病院との協力体制をとりながら運営に当たりました。又、非常勤講師として、法人全体で28名を派遣しました。

#### 御殿場看護学校の実習受入と指導者養成

御殿場看護学校の実習病院として看護師養成に努めました。又、現在、実習指導者は、富士病院22名、富士小山病院8名、東部病院6名、訪問看護ステーション2名計38名在籍していますが、指導の充実の為、今年度も指導者講習会に富士病院3名、富士小山病院2名、東部病院1名参加いたしました。

#### 昭和大学の医学部を含む1年生の初年次体験実習

昨年21年度から受入を始めましたが、富士病院と東部病院において、本年度は、9月に5名の班構成で9班の学生の実習を各病院にて、

延 9 日間合計で 90 名の学生の研修を行いました。

#### 医療従事者・救急救命士の育成

各種専門学校と連携して、薬剤師・理学療養士・検査技師・社会福祉士・栄養士・看護教員・医療秘書の実習を受け入れて、医療従事者を育成し地域医療の質の向上に努めました。また地元消防と連携し、救急救命士就業前後病院研修を受け入れ、指導教育を実施しました。

#### 講師派遣

東海大、東部看護学校を始め大学・専門学校に非常勤講師として医師、看護師、技師を派遣しました。

#### 「1日ナース体験学習」の受入

高校生を対象に、県の事業である「1日ナース体験学習」を受け入れ、将来の看護師育成につなげます。(富士病院 8 名)(富士小山病院 2 名)

#### 学術講演会

学術講演会を 5 回計画し、御殿場小山地域の病医院等に参加を呼びかけました。

#### 小中学校の児童生徒の体験学習受入

小中学校に協力し、各病院にて中学校生徒を中心に小学生を含め、複数回体験学習を実施しました。

#### 各種学会の発表

各種学会の発表を医学の発展のため、積極的に行いました。

#### がん予防の啓蒙活動

昨年に続き、9月11日に開催されたリレー・フォー・ライフに法人全体で積極的に参加しました。救護所では当院が中心となり、近隣病院に働きかけ配置を決め、開会の挨拶は、若林院長が地域の代表として行い、がんと闘う方々と連帯感を持って活動できました。また職員も多く参加し、寄付金も集め、がん患者支援活動に使われました。

#### 自然震災支援活動

東日本大震災・小山町豪雨災害が今年度発生し、当法人としていち早く義援金支援・救護班の派遣・物資の発送等実施しました。小山町の災害では被災した職員もあり、富士小山病院が中心となり支援活動を展開しました。東日本大災害においても、職員派遣を決定し義援金や文房具、生活必需品を送るなど被災者の支援を行いました。

職員は各種団体において、法人の目的を達成する為、文化・教育・医療・福祉その他の発展に寄与するように積極的に各種活動に参加しました。たとえば音楽を通じて広く市民の生活に潤いと安らぎを与え、健全な心と身体を育成する目的で、マウントF U J I交響楽団に練習の場を無償提供し、また看護学生等を演奏会に招待する活動を支援し

ました。また各種学会においても重要な役割を果たし、地域活動においても重要な役割を担いました。

### 3. その他地域住民の為の活動

#### 無医村地区の医療継続活動

平成 22 年 2 月末に小山町町長より強い要請をうけ、又、御殿場市医師会長からも、何とか地域医療の継続に協力するよう依頼があり、管理医師が不在となる足柄駅前クリニックの再開に注力しました。このクリニックは公設民営の施設として、平成 12 年 5 月開設した無床診療所、山間部の人口も少ないこの地域で開業する医師は、長年かけてやっと見付き、運営していた施設でこの地域には無くてはならない施設です。656 世帯 2122 人の健康と安全を確保することは有隣厚生会としての役割と考え、招聘活動を開始しました。しかし個人開業をする医師は皆無で、やむなく富士病院の常勤医師の日程を変更し、富士病院を退職、管理医師として、足柄駅前クリニックに勤務してもらうこととしました。更に足柄上病院にも依頼し、整形外科医師を週 2 日派遣してもらいました。

地域の方々に対し、病気の知識向上と健康で生きがいある生活が過ごせるよう各病院・施設で地域の方々とふれあい事業を展開しております。

富士病院の『看護の日』、富士小山病院の『健康フェスタ富士小山』、東部病院の『しゃくなげ祭』、グループホームの『地域・家族親睦会』を開催しました。（富士病院については建築関係で開催できませんでした）

### 4. 富士病院の事業報告

以前より、一般病院としての機能の充実とあわせ、「循環器病センター」、「消化器病センター」の 2 つのセンター構想を中期目標の重点項目としてアピールしてきましたが、循環器科については、心臓血管外科医師の退職で、機能が今期低下してしまいましたが、地域のセンターとしての役割を果たすべく、浜松医科大学第 1 外教授椎谷紀彦先生の大英断にて、心臓血管外科 2 名の派遣が決定し、23 年度に向けて明るい話題が提供できました。さらに人員の確保と体制の改善を図り、地域の要望に今後も応えていきたいと考えます。

この地域はいつでも緊急内視鏡検査・治療、手術が可能な施設は無く、この分野の充実を当院がやらなければならないと考えてきました。そのため、診療体制を充実させるとともに、高度医療も実施できる施設としての設備および人員の充実を図りました。人的には、すでに決定している消化器内科の医師が、大学の都合で就職が延期し、足踏み

状態が続きました。しかし、期末には消化器外科の若い医師の採用が決定し、浜松医科大学からの心臓血管外科医 2 名とあわせ、23 年 4 月から 3 名の採用が決定しました。

医師不足の象徴的現場が救急医療ですが、救急患者の受け入れる体制整備もあわせて進めました。人的充実とあわせ、一層の検査機能の充実を図り、必要な医療情報の精度を高め、安全確実な医療の提供に心がけてきました。

また眼科においては、白内障手術も急激に伸び、月 40 件を超え、透析患者は合併症が急増しましたが、出来る限り対応し、また腎臓内科では、管理指導に注力しました。糖尿病、呼吸器患者も順調に増加し、小児科については救急センターからの救急入院の受入れは全力で当たりました。今後も地域の小児医療の中核をなしていきます。外科も緊急手術をはじめ専門的分野の診療対応を実施し、地域医療へ貢献しました。その他の科も、地域になくてはならない科として信頼を獲得するよう勤めました。

病院の耐震化増改築事業につきましては、国の補助事業の見直しもあり、先送りを余儀なくされましたが、今期から 26 年 1 月までの計画で実施することになりました。設備、機器等の整備はこれに並行する形で進めていくこととなります。

健診事業につきましては、21 年 3 月に購入した胸部健診車の積極的な展開を進めてまいりました。企業健診の数は、順調に増加しております。今期加えて、診療につなげる健診の工夫を検討して参りました。

人材の育成は、最重要課題であります。御殿場看護学校の運営も順調に進み、平成 22 年 4 月には 12 名の卒業生を受け入れました。この育成こそが、今後における病院運営の重要な要であり、目標実現に欠かせないものであります。

患者に対して医療内容を満足できるものにすることが最大のサービスと考え、必要な医療機器を整備し、優秀な医師と看護師などのメディカルスタッフがチームとなって診療する体制づくりを目指しました。

また診療内容の十分な説明を心がけ、カルテに基づいた請求を徹底させ、常に患者中心に行動し、親切な働きかけを徹底させ、安心と信頼を獲得するよう努めました。

さらに、行政、医師会との連携を重視し、地域の基幹病院として、急性期疾患に十分対応できる病院作りを心がけました。

以上のことにより、平成 22 年度の入院患者数は 113 人（昨年より 2 名減）外来数も、470 人（昨年より 17 人減）と減少し、日当点の減

少も加わり、43,019千円の赤字を計上、前期に引き続き、建築準備金の積み立ては実行できませんでした。7:1看護基準取得で、入院についてはやや診療収入は増加(1.1%)しましたが、外来の減少が大きく(3.5%)収入総額としては、ほぼ昨年と同額でした。しかし医薬品、診療材料をはじめとした支出の減少により、昨年より赤字幅は改善できました。

診療状況は年報を作成し、一部ホームページでお知らせしております。

なお、救急については夜間休日対応件数1,423件(内小児科件数66件)、救急車受入件数344件(内小児科受入件数18件)でした。年間を通しての救急車の受入件数は697件でした。

## 1) 広報広域活動

「富士病院」が急性期病院として地域の方々に信頼され、安心して利用していただけるよう、さまざまな広報活動を実施。また活動を通じて、病気予防の啓蒙活動を行ないました。さらに、各種団体のメンバーとして活動し地域医療・福祉の向上に努めました。

### 看護学生教育、育成事業

御殿場看護学校の運営を御殿場市医師会病院部会(9病院)で行っていますが、当院はその中心としての役割を持ち、教員等の採用などにも関わり、地域に貢献する看護師に育成すべく、各病院との協力体制をとりながら運営に当たりました。東部看護学校、小田原看護学校などの看護学校の学生に対しても奨学金の貸与を積極的に働きかけました。

### 御殿場看護学校の運営

若林院長は御殿場看護学校の運営の病院部会代表(副校長)として、運営会議に毎月参加(事務局長も参加)、連絡会は事務局長が毎月2回参加し、学校の運営に尽力しました。また当院が中心となり、毎月御殿場市医師会病院部会(9病院)を開催し、看護学校運営について同じ方向性を持つようにまとめました。当院から非常勤講師として、医師12名、看護師8名、薬剤師1名、放射線技師1名、SE技術者1名を派遣しました。運営経費的には問題ありませんが、教員不足、人事の関係はかなり時間をかけて検討改善を試みております。

### 御殿場看護学校の実習受入と指導者養成

御殿場看護学校の実習病院として実習指導者、富士病院22名が中心となり、看護師養成に努めました。指導の充実の為、今年度も指導者講習会に富士病院3名参加させました。

### 昭和大学1年生の初年次体験実習

昭和大学の学生（医学部・歯学部・薬学部・保険医療学部）の1年生に対し、9月6日から16日の期間に5名の班構成で9班の学生（延べ45名）の実習を行いました。医療従事者としての初めての書記研修ですので、夢を与え、今後の勉学の活力になるように心がけました。

#### 医療従事者・救急救命士の育成

本年も将来を担う医療従事者を育成する為、各学校からの院内実習受入を積極的に実施、技術者の育成に努めました。

理学療法臨床実習（富士リハビリテーション・常葉学園）

臨床工学技師（東海大学開発工学部医用生体工学科）

東京衛生学園専門学校看護学科（通信制）

また救急の現場で重要な役割を担う救急救命士育成の為、以下の事業に参加しました。

#### 救急救命士の就業前研修

5月6日～19日と5月21日～6月3日の10日間2名

#### 救急救命士の就業後研修

9月27日～11月16日の2日間9名

#### 救急救命士の薬剤投与研修

23年1月12日～2月9日の6日間3名

#### 講師派遣

学校の非常勤講師として各大学に派遣を実施しました。

東海大学1名、昭和大学2名、平塚看護専門学校1名

北里大学保健衛生1名、

「1日ナース体験学習」の受入

高校生を対象に、県の事業である「1日ナース体験学習」を受入れ、将来の看護師育成につなげました。

富士病院8名

#### 学術講演会

学術講演会を計画し、専門職の方、一般の方に参加を呼びかけました。また健康大学などを通じて各種疾患の知識啓蒙活動を実施した。

溝部 正雄 7.12（消防庁舎） 新任医師に対するプロトコール講演会

11.9（消防学校）『気管挿管・薬剤投与が適応となる心停止』

小見山 綾（皮膚・排泄ケア認定看護師）

H22.6.15（御殿場市市民会館）『褥瘡について』

9.29（市民交流センター）『介護予防、尿失禁について』

対象は民生委員児童委員協議会・高齢者福祉部委員会員

杉山明宏（言語聴覚士）

22.5.14、28（みくりや園） 口腔ケアについて



嚥下訓練について

22.7.15 (市民交流センターふじざくら)御殿場市社会福祉協議  
会の勉強会 ホームヘルパー講座講師

22.12.1 (小山町ハローワーク)小山町ハローワークの勉強会  
ホームヘルパー講座講師

岡部喜美子 『介護予防について』シルバー人材センターにて 講師

佐藤 賢 『糖尿病について』 健康大学、薬品各メーカー内講演(10  
回) 糖尿病教室 12回

調理実習 糖尿病の患者向け実習

ウォークラリー 運動療法の実践

神尾和孝 御殿場市薬剤師会

小中学校の児童生徒の体験学習受入

小中学校に協力し、中学校生徒を中心に小学校児童を含め、複  
数回体験学習を実施しました。

各種学会・研究会の発表

各種学会の発表を医学の発展のため、積極的に行い、職員の医  
術向上にも役立てた。医療安全管理シンポジウムについては、3年間静岡  
県病院協会において担当してきましたが、その役割を小山病院に託しました。  
今回は19名参加しました。

・溝部正雄(医師)

22.4~3.3まで毎月(みなとみらい・東京、大学、タイ、ニューウェルサン  
ピア等)『ACLS、PALS等インストラクターコース指導』AHA認定コー  
スを主催し、救急の啓蒙活動に尽力

・佐藤 賢(医師) 糖尿病治療指導をする傍ら、医療者の教育、患者  
へ啓蒙活動として以下の事業を展開。

22.4.15(ホテル御殿場館21)『インスリンの治療と管理』

御殿場市医師会有志(御殿場糖尿病研究会)講師

4.24(ヒルトン名古屋)ランタスメディカルトリビュンフォ  
ーラム『BOT使用経験』演者・執筆

静岡県東部糖尿病連携の会(コメディカル含む)6回開催、世話人  
講師

6.28(沼津東急ホテル)静岡県東部エリア一般医師対象にイン  
スリン療法座談会『インスリン療法で行き詰ったときの次の一手を  
考える』

7.29新薬と臨床『糖尿病とPAD』執筆

10.22(アクトシティーホテル浜松)糖尿病病診連携学術座談  
会『インスリン治療の最新知見』非専門医対象 講師

- ・井林未記、真鍋美由紀(看護師) 22.11.15～16 (ウィンクあいち)  
H22 年度東海北陸地区看護教育研究会『看護管理・教育』 発表
- ・中村康雄・磯貝智美(看護師) 22.7.16～17 (セルリアンタワー東京)  
『TOPIC2009 コメディカルファカルティ』 座長・コメンテーター
- ・大内紀寿 22.6.27、8.28、9.5 (東京・仙台・札幌)日総研  
『ベテランが考える内視鏡業務』 講師
- ・中村康雄(看護師) 22.4.3～4.4 (秋田県JAビル)  
第37回秋田県冠動脈治療カンファレンス『動画で学ぶ急変対応』  
講師
- ・中村康雄・岩田武久(看護師) 22.5.7～9 (岐阜県県民ふれあい会館)CV  
IT第3回東海北陸地方会『当院におけるコメディカル業務』 発表
- ・中村康雄(看護師) 2.8.22～4(ウェストンホテル仙台、仙台国際ホテル)C  
VIT2010第19回日本心臓血管インターベーション治療学会『愛される  
カテ室にするために』 発表
- ・中村康雄・岩田武久(看護師) 22.10.22～24(アクトシティ浜松)CVIT第24  
回東海北陸地方会『患者指導』 発表
- ・中村康雄(看護師) 22.12.4(日石ゴール) 第17回鎌倉ライブ『カテ室で  
の「凍りつくような場面」について』 パネリスト
- ・門脇 和子(看護師) 23.2.5 (沼津市立図書館)平成22年度静岡県看護  
協会東部地区支部 看護研究発表『内服自己管理に向けての取組み  
～内服自己管理選択MAPを使用して～』 発表
- ・時國麻里子(社会福祉士) 22.5.29 (ニューウェルサンピア)  
医療ソーシャルワーカー協会5月事例検討会 発表
- ・上棚稔之(放射線技師) 22.7.3 (浜松労災病院)  
第15回乳腺画像部会 座長、実習
- ・上棚稔之(放射線技師)22.10.3(事前講習会)、11.12～14日(静岡県立静  
岡がんセンター研究所)) 第10回静岡県マンモグラフィー読影・画像技  
術講習会 講師
- ・廣瀬和秀(放射線技師) 22.7.4 (東京国際フォーラム) 第26回放射線総  
合学術大会『夜間緊急時、カテ室スタッフとしての診療放射線技師の役  
割～カテ室内緊急時の迅速かつ円滑な対応～』

#### 癌予防・各種疾患の啓蒙活動

『リレー・フォー・ライフ静岡 2010with富士山』に昨年続き、地区の病院として中心的役割を担当しました。医療ボランティアを市内病院にお願いし、医師・看護師・薬剤師のボランティア協力を得、救護班の24時間体制を調整しました。また癌患者のための募金活動、当日のウォーキングとサバイバーの方々とふれあい、癌と闘う方々から逆に活力を頂きました。今後の病院運営にも役立てます。

また乳がんの最新治療の学術的貢献を目指し研究に参加しました。  
職員の技術向上のための学会・研修会に積極的に参加をさせ、CT・エコー・マンモグラフィー等の精度を上げ、読影医師を採用し、チェック体制の充実を図り、癌をはじめとする疾病の早期発見に努めました。また健診事業と連携を持って、早期発見した症例の治療に当たりました。更に9月から1月にかけてマンモグラフィーの2重読影の為、園田医師、技師が中心となり、近隣病院の医師・技師が当院に集まり、読影会を定期的に行い、精度向上と技術のアップに努めた。

3月11日の東日本大震災を受け、義援金 317千円を御殿場市役所へ、  
そして、文房具類を集め、東北大学を経て気仙沼市にダンボール5箱を郵送しました。

医師会で行っている看護師派遣については、3名ほど希望を出しましたが日程が合わず、参加できませんでした。

下記各種団体のメンバーとして医療関係を中心に活動し、その発展に寄与しました。また教育・文化として、マウントFUJI交響楽団は地域初の交響楽団です。そのほか検眼活動、地域の都市開発の評価・提案など未来の都市づくりにも参画しております。

御殿場市医師会理事

御殿場看護学校副校長

御殿場市医師会病院部会代表

静岡県病院協会監事

東部緩和医療研究会世話人(3名)

御殿場・小山障害自立支援協議会委員 1名

静岡県看護連盟御殿場エリア長

日本消化器内視鏡技師会東海支部会長兼静岡支部会長

御殿場看護学校(講師23名)

静岡県臨床検査技師会支部役員

日本超音波検査学会代議員 1名

静岡県医療ソーシャルワーカー協会理事

静岡県給食協会御殿場支部理事副会長

静岡県放射線技師会東部地区役員・北駿支部長

静岡県放射線セミナーマネジメント(技師会長)監事

御殿場市小山地区MC協議会委員

御殿場市小山地区MC協議会運営部会副会長

御殿場市小山地区MC協議会症例検討部会委員

マウントFUJI交響楽団団長

御殿場駅東地区まちづくり懇話会委員

御殿場市都市再生整備事業評価委員

## 5 . 富士小山病院の事業概要

### 1) 収支状況

小山町唯一の病院として、地域の皆様とふれあいを大切に、職員一同、医療介護サービスの充実、業務の効率化、コストリダクションを一致団結して、推し進めてきました。

医業収入は、外来収入が401,560千円(予算比0.9%減)、入院収入が、606,189千円(予算費1.5%増)となり、結果総額1,007,749千円(予算比0.5%増)の対予算5,032千円(予算比0.5%増)増額となりました。詳細は、外来においては、一人当たりの診療単価7,780円と予算143円増額しましたが、一日平均患者数が174名にて、予算目標177名をクリアできず、外来患者延べ数51,216人(予算比98.1%)となり、予算目標を3,721千円の減収となりました(前年に対しては2.2%増、8,470千円増額)。入院に関しては、急性期病棟が、一日平均入院患者数が22.9名にて、予算目標2.2名クリアできませんでしたが、急性期看護補助体制加算及び白内障、ペースメーカー等増収により、予算比0.5%減の対予算1,325千円減収となりました。療養病棟は、年間平均稼働率97.8%と予算96.7%を0.7床(年平均58.7床)とし、予算比3.2%増の10,079千円の増収となりました。また、今期は予防接種(インフルエンザ肺炎球菌)による増加、2次救急医療施設医療機器補助金15,000千円等により、医業収入全体では、予算比2.5%増額の26,747千円の増額と、目標額を更新しました。

医業費用については、予算額より3,945千円(予算比0.4%増)上回りました。詳細は、給与費は予算比1.4%減、材料費は予算比3.9%減(コストリダクション等)、委託費は予算比4.7%増(CT管球修理による保守料3,300千円)、諸経費は予算比11.8%増(建物設備等の老朽かによる故障修繕7,317千円、備品の故障、計画停電に対する備品の調達等4,497千円)、減価償却は予算比18.5%増(2次救急医療施設医療機器補助金により購入X線TV)となります。また、今後の建物設備等の老朽化を鑑み修繕引当金15,000千円を計上しました。

以上の結果、当期は48,478千円(予算比23.6%増)利益計上となりました。

### 2) 広報広域活動

「富士小山病院」が地域密着型病院として地域の方々に定着するよう、さまざまな広報活動を行いました。また、各種団体のメンバーとして活動致しました。

#### 医療安全管理シンポジウム

11月16日に沼津市魚町のサンフロントビルにて、静岡県病院協会事業として当院幹事病院となり平成22年度医療安全シンポジウム開催しました。「患者・市民

の医療参加」をテーマとし、静岡県がんセンター所属薬剤師にて医療安全全国共同行動 行動目標 8 患者・市民の医療参加、支援チームの一員として活動している、飯島久子先生による「患者・市民の医療参加を進めるために - 医療安全全国共同行動の取り組みを中心に - 」の講演に始まり、沼津市立病院、富士宮市立病院、富士小山病院の取り組み事例発表、そして全体討論を行いました。東部地区の医療関係者(東部 20 施設、中部 2 施設)141 名の参加をいただきました。  
健康フェスタふじおやま 2010

6 月 26 日に御殿場市民交流センターふじざくらにて、当院主宰によるイベントを行いました。一般の方々を対象に当院内科医師前畑昌司による講演「東洋医学で人を診る～冷えは万病のもと～」を中心に、和太鼓組駿河之國鼓太郎をご招待し和太鼓演奏、医療相談、健康チェックを行い、盛況のうちに昨年に引き続き 2 回目となるイベントを行いました。

#### 看護出前授業

- 6 月 9 日 小山高校 3 年生 24 名、教員 3 名 テーマ 看護への道
- 6 月 28 日 長泉北中学校 2 年生 170 名、教員 12 名  
テーマ 看護への道
- 7 月 6 日 小山高校 2 年生 70 名  
小山町企業懇話会事業第 1 回地域企業によるキャリア教育
- 7 月 13 日 富岡中学校 1 年生 135 名、教員 8 名  
テーマ 看護への道
- 11 月 8 日 深良中学校 全校生徒 147 名、教員 20 名、保護者 10 名  
深良中健康フォーラム講師  
テーマ いのちの大切さ

#### 看護学習体験受け入れ(1 日ナース体験) 静岡県ナースセンター事業

7 月 26・28 日 (高校生 5 名)

#### 介護体験学習受け入れ

- 8 月 25 日 (一般男性 1 名)
- 10 月 4 日 (一般女性 1 名)
- 10 月 28～29 日 (須走中学校 2 年生 4 名)
- 11 月 4～5 日 (御殿場中学校 2 年生 5 名)
- 11 月 17 日 (北郷中学校 2 年生 3 名)
- 11 月 18 日 (小山中学校 2 年生 4 名)
- 12 月 3 日 (御殿場西高校 3 年生 1 名)

#### 救急救命士就業前後病院研修受け入れ

11 月 8 日～11 日 2 名

療養病棟の催し物として、花見(4/24)、敬老会(10/2)、療養入所者忘年会(12/18)等を行い、患者様ご家族、地域のボランティアの方々にご参加いただき、交流を図りました。

11月29日から12月3日に、御殿場西高等学校海外修学旅行の引率に看護師1名を派遣しました。

12月7日から12月16日及び、3月28日から3月29日に、緊急人材育成支援事業による7名のホームヘルパー2級過程の職業訓練実習の受け入れをしました。

3月11日の東日本大震災を受け、被災地支援として人的物的支援を行いました。ただ、時期が早く、被災地の直接受け入れ態勢が確立していなかったため、3月25日に生活必要物資(衣料品タオル等ダンボール33箱)を、日本慢性期医療協会へ発送、3月28日に義援金175千円を小山町社会福祉協議会へ、そして、看護師派遣として、日本看護協会に打診し、来年度4月6日に1名の派遣を始めとして、以降5名の派遣を予定しました。

下記各種団体のメンバーとして活動しました。

御殿場小山介護保険認定審査会(委員1名)

御殿場市介護保険運営協議会(委員1名)

御殿場市国民保護協議会(委員1名)

静岡県病院協会(社会保険部会員兼医療事故防止部会員1名)

静岡県病院協会東部支部(東部支部理1名)

静岡県看護協会(東部地区支部副支部長1名)

静岡県看護部長会(役員1名)

静岡県看護連盟(御殿場エリア副エリア長1名)

御殿場看護学校(講師4名)

### 3)診療関係

救急受け入れ件数と内容

脳神経系8件、循環器系14件、呼吸器系31件、腹部内因性24件、外傷系16件、中毒7件、その他55件                      合計155件

患者送迎車稼働件数

外来患者送迎延べ13,272人

### 4)発表研修等

学会発表等

平成22年8月25日 大阪国際会議場

第18回日本慢性期医療学会

「排泄自立への取り組み」

大石 典子 (介護福祉士)

平成23年2月5日 静岡県看護協会東部地区支部

「エンゼルケアの一考察」

廣島 美幸 (看護師)

## 院内院外研修

より質の高い医療サービスをめざし、医療安全対策委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、看護課教育委員会、新人看護職員研修等、院内研修 95 件を行いました。また、各種団体の院外研修会に公私にて延べ 75 件に参加しました。

## 資格取得

ICLS

看護師 3 名

介護福祉士

看護助手 1 名

上級救命講習会参加及び認定 看護師 6 名、看護助手 5 名、他パラ事務 5 名

## 6 . 東部病院の事業計画

### 収支状況

平成22年度の医業収入は、外来が713,455千円(前年比+4. % 33,800千円)、入院が407,465千円(前年比 1.9% 7,800千円)となり、当期損益は、前期に比し、11,105千円の収支改善となる15,709千円となりました。

しかしながら、対予算比においては東部病院の焦眉の急として掲げた透析部門の常勤透析管理医師の補充ができず、入院病床の稼働率引き上げも平均在院日数が20.2日に(前年比3.4日)と改善されたこともあり結果的にできませんでした。

医業費用は急性期病院として必須の10対1看護基準への引き上げのための看護職員をはじめとした医療職員の増員による人件費増額が対前年比で約28百万円増加いたしました。

東部病院の特色の一つである足外来患者数は平成23年1月現在、15,999人、定期的なフットチェック受診者数7,408名を数えるにいたっております。

患者状況は、外来部門では1日あたり患者数は164.9人(前年比 0.6人)であり、新患者数は3,679人(前年比 537人)、再来患者数は44,885人(前年比+471人)でした。

入院部門は、一日平均入院患者数が35.1人(前年比 0.3人)、年間延べ在院患者数は12,820人(前年比 107人)となりました。

健診部門では、協会健保の『生活習慣病予防健診実施医療機関』に認定されたためか、健診・ドックの受診者数が2,377人(前年比+318人)でしたが、内企業検診数が281名の増加となりました。今後はさらに増加するものと思われます。

### 平成22年度活動状況

#### 1) 広報広域活動

院外講師

花田医師:山梨透析フットケア研究会

特別講演：『透析患者の足病変に対する治療戦略』

猿渡管理栄養士 東灌工業 『食中毒の知識と予防対策』

看護学校等講師派遣

御殿場看護学校講師 4名

東部看護学校講師 1名

東海大沼津校講師 1名

その他の講師

ヘルパー2級講師

2) 実習受入れ

昭和大学富士吉田教育部

9月7日～17日 5名×9日間=45名

御殿場看護学校 3年生 在宅実習看護論実習の一部(透析、外来、統合)2  
単位(90時間のうち、21時間)

5月7日～10月28日

3年生 32名

職場体験学習

原里中学校2年生 2名 (8月25・26日)

西中学校2年生 3名 (10月14・15日)

西中学校1年生 2名 (10月15日)

3) 研修受け入れ

フットケア外来研修

独立行政法人 足柄上病院 糖尿病療法指導士 1名

(弾性ストッキングについて)医療法人 駿東育愛会 望星第一クリニック 2名

透析室研修

富士小山病院 看護師 1名

4) 看護協会関連研修参加

実習指導者研修会 1名 40日

看護研究(基礎) 1名 3日

看護管理 1名 3日

医療安全 1名

糖尿病看護 「重症化予防のためのフットケア」 2名

新人教育実地指導者研修1名

新人教育実地責任者研修 1名

災害支援ナース研修(A・B)2名



5) 研究発表等

院内研究発表会

イ 弾性ストッキング着用度追跡調査

ロ 症例検討

ターミナル期における高齢者への疼痛の援助

術前オリエンテーションの必要性について

院外

まきじの会

東部病院におけるフットウェア外来の実際

医師学会発表

花田医師:第9回日本フットケア学会 年次学術集会

『当院における 足治療が以来の現状と今後の展望』

第51回 日本脈管学会総会

『糖尿病合併透析患者の重症虚血肢に対する治療経験～下肢

静脈血行再建における表在エコーの有用性』

岡山医師:海外誌投稿

6) 院内研修

医療安全管理、感染対策研修会 年14回

DM、CKD、メタボ対策、内視鏡、フットケア、再生医療勉強会など

年50回

合同カンファレンス 年22回

MR 勉強会及び症例検討会 月1回

助手研修9回

7) 院外研修

看護部:80件以上

他部署:34件以上(医師を除く)

8) 資格取得

弾性ストッキングコンダクター1名

フットケア指導士2名

糖尿病療養指導士1名

ケアマネジャー2名

9) ボランティア活動

東日本大震災における派遣

日本透析学会依頼 23年3月25日から3月31日 1名

## 10) 手術内容

透析関連:36件(+2)

外科:24件(+10)

血管外科:30件(-2)

整形外科:15件(+3) 花田医師 アンプタ手術がほとんど

形成外科:17件(-2)

再生医療:1件(-2)

手術室件数: 全麻、静脈麻酔+局麻:55件

局麻:50件

外来手術 : 局麻19件

## 7. 訪問看護ステーションごてんばの事業報告

前年同様、利用者は110数名であります。訪問件数は、450から600件あり、前年よりも増えました。また夜間、休祭日の呼び出しが198件あり利用者の安心のための対応を致しました。

利用者の中には、重症な方や医療処置のある方が多くなっているため、亡くなられる方や入退院の方が多くなり、調整も難しくなりました。

22年度はなくなられた方が73名ありましたが、登録者数には大きな変動はありませんでした。

サービスを向上させるため、サービス担当者会議には、1年間で96件参加し、他との連携を積極的に図りました。

増える利用に対応するため、スタッフの増員も考えてはおりますが、訪問看護を希望する看護師は少なく、話があっても採用にはなかなか結びつかないため、引き続き労働環境の改善が課題となりました。

22年の診療報酬改正で、訪問看護管理療養費が初回が250円で、2回目からは50円アップされました。医療保険での訪問看護は件数が少ないのですが、多少の収入増となりました。

訪問看護推進事業として、東部管内のいくつかの訪問看護ステーションが連携して、訪問看護の電話相談をしています。当事業所も毎月1日参加して、地域とのつながりを密にしました。

各種支援活動として看護学校への講師派遣(1名)と地域に唯一の施設の為、御殿場看護学校学生は全員5日間の実習を行っております。また静岡県看護協会の在宅訪問看護研修事業に参加昨年は2回在宅研修を受入ました。更に東京衛生学園専門学校看護学科(通信制)の学生も2日間受入し、将来の看護師に在宅の重要性を教育しました。

公的任務として前年度に続き、御殿場市介護保険運営協議会(委員 1 名)に任命され、職務を遂行しました。

## 8 . グループホームごてんばの事業報告

生活する中で身体的、認症的に重度化が増し、当施設での生活が難しく他の施設に移った例、天寿まっとうにより退所となった例など、22年度は2名が退所しました。

22年度は、情報公開制度が開始となり、関係書類を整備しましたが、本年の外部評価調査では、良い評価を得ることができました。

また、24時間テレビ「愛は地球を救う」実行委員会から車椅子で乗車可能な自動車の起草を得ることが出来、入居者の生活の広がり到大変役立てることが出来ました。

設備整備として万が一の火災に備え、市から補助金の支援を得、スプリンクラーの設置を致しました。

地域とのかかわりとして、毎月運営会議を、利用者の家族と地域区長、民生委員、御殿場市担当職員等にも出席していただき、また近隣の方にも声掛けをし、大勢の参加の中で行なっております。中でも年1回は親睦会も兼ねて、バーベキュー大会を開催、四季折々の活動事業の重要な一つとして組み込んでおります。また広報的な事業として、グループホーム新聞を発行し、グループホームの啓蒙活動に役立てております。